

1. 目的

コンピューター上で顔と被服を合成し、その印象を被験者に判定させ、顔と色彩が適合する条件を求める。

2. 方法

実験1. デザインを一定にして、色彩に48種類の変化を与えた。被験者3名にデザインと色彩のマッチを判定させた。

実験2. 実験1でマッチした被服22点につき、3名のモデルの顔との組合せで、「似合う」程度を判定させた。

実験装置：コンピューターグラフィック装置”アートスター”を用いる。

デザイン：ワンピース（丸首、長袖、ベルト付き）

モデル：1. かわいらしい、優しい

2. キュート、活動的

3. 男性的、大人っぽい

3. 結論

- (1) デザインとマッチする色彩としない色彩の間には有意な差が見いだされた。
- (2) 似合う程度に対して、モデル間及び色彩間に有意な差が見いだされた。
- (3) 色彩のマッチ、色彩の似合い方について、それぞれいくつかの傾向が導かれた。